

玉川学園は2006年から幼小中高一貫教育『K-12 一貫教育』を実施しています。「K-12」は「幼稚園 (Kindergarten) から始まり高等学校を卒業するまでの期間」の呼称で、幼稚園、小・中・高等学校という学校種の枠を越えた教育の連結性・一貫性を考えるコンセプトとして使用しています。小学部から高等部までの各学年を1～12年とし、さらに3つのディビジョン『Primary Division』『Secondary Program Division』『IB Programs Division』を設けています。

Primary Division (幼稚部および1～5年) = 幼稚部および小学校1～5年

Secondary Program Division (6～12年) = 一般クラスの小学校6年～高校3年

IB Programs Division (6～12年) = IBクラスの小学校6年～高校3年

玉川学園[幼小中高]

## 令和5年度学校関係者評価結果

### K-12 父母会役員からの意見聴取 (まとめ)

2023年度の学校関係者評価会議では、本学への要望・期待について、保護者の視点からご意見をいただきました。主なものは次のとおりです。

#### ◆K-12 教育活動について

##### <Primary Division>

- コロナ禍に、より早くオンライン授業を取り入れた経緯もあってか、直近のインフルエンザの流行にもオンライン授業を柔軟に取り入れることで、感染症の状況に応じて対面とオンラインをうまく並行いただけました。また、英検のスコア遷移や英語科目のカリキュラムやテストを通じて、学外で個別学習させずとも学校の英語学習だけで着実に英語力が向上していることを認識できています。
- 子供から直接、または母親と子供のコミュニケーションを通じて、学園活動や授業を聞いているつもりでしたが、授業だけではなく課題授業の充実ぶりには感心させられました。ハーカー校との国際交流・ドローン実験やソーラーカー体験・クラシック鑑賞や日本伝統文化体験など、子供の知的刺激を促進するような仕掛けばかりで、羨ましいと思うくらいでした。入学者数や進路先など定量的な目標値や授業時間確保の難易度も有ろうかと思いますが、是非、K-12プログラムの強化・深耕に際して、子供達の興味を多方面に導いて頂けますと有難いなと思います。
- 本年度よりマスクなしの生活が始まり、他学年との交流も再開し、一貫校ならではの活動が多く嬉しく思いました。上の学年を間近で見ることで明確な目標が立てられるので、今後も期待しています。英語の授業に関しまして、1学期の時は前年度よりバグクラブのスタート時期が遅くなることに少し不安を感じていましたが、2学期の頃には英語の力が伸び、積極的にバグクラブに取り組む姿を見ることができました。個人的な意見としてはもう少し早い9月頃よりスタートしてもいいのではと感じました。
- 親として安心しておまかせできる環境だと思いました。
- 特に2年生の田遊びから始まる米作りのカリキュラムは、とても玉川らしく、子供たちの心に残る教育であると感じました。1・2年生は親子で楽しめるカリキュラムが度々ありますが、現3年～5年は、低学年をコロナ禍で過ごしているため、そのような機会が少なかったことが残念です。一方、いじめについては、残念ながら何度か耳にすることもあり、対策を検討し続けなければいけないと感じます。
- 日頃より子供達の為によりよい教育活動を与えて下さり誠に感謝申し上げます。幼稚部につきましては、次年度より合宿を再開予定であり、子供達にとって大変貴重な経験となる活動の再スタートは成長の大きな糧となると期待しております。K-5につきましては、国語力向上のために俳句を強化することは、感性と語彙力・思考力・四季感覚など様々な観点より大変素晴らしいと思います。俳句という大変難しいものを教える指導力も先生方に問われることと存じます。
- 近年増えているであろう共働き家庭の事情を考慮すると、ランチサポートの導入は大きな一歩だと感じています。遠方からの通学児童のことを考慮すると、過去に実施されていたというスナックタイム (簡易版または選択制) の復活は検討してもいいように思います。
- 先日、最寄り駅に電車の中で不審者がおり、子供達が怖い思いをしたことがありました。子供から聞き、次の日には一緒に登校いたしました。子供からの情報なので詳細が分からず、違う車両に乗っていたお子さんの保護者の方は後からそのことを耳にし、「不審者がいたようだ。子供達が怖い思いをしたようだ。」と不安を感じていらっしやいました。物騒な世の中なので、こうしたことがあった後、Google Classroomなどで情報を共有していただけると、保護者の立場と

しましても対策が立てやすいと感じました。

- 先日行われた K-5 父母会にて、教育部長より多くの教員が退職される旨のお話があったことを受けて、各学年の保護者の間で不安視する声上がることは想像に難くないため、そのような声上がる前に相応の説明がないと学校に対する不信感が強まる懸念があると思います。
- 今年度、多くの先生方が退職されますが、来年度以降、学級懇談会を平日に実施するなどにより、先生方の負担軽減につながることを期待しております。また、保護者の過度な要求が先生方に負担をかけているのではと心配しております。学園に足を運ぶ機会が減り、玉川学園の教育理念を理解し、先生方との関係を築く機会が以前よりも少なくなっていることも一因であると考えます。以前行われていた保護者の丘めぐりなどの企画を再開し、保護者の皆様にも玉川学園の一員としての愛着を持っていただけるような取り組みを行うことで、玉川ファンを増やす一助となると考えます。

#### <Secondary Program Division>

- 多岐にわたる充実した活動を展開していることは理解できましたが、全ての児童生徒がどの程度主体的に参加できているかの指標があれば良いと思います。
- 高等学校新学習指導要領が完成し、どう変化があるのか期待しております。
- コロナ禍で玉川の三位一体に少し距離感を感じていましたが、コロナ後の教育活動、行事の再開により、三者の距離も縮まったと思います。これからのあり方についても柔軟に検討されていると思いました。
- コロナ禍が明け、学園として児童・生徒のことを考えて下さって活動されていると思います。今後も、SSH の発表などで、学外でもたくさん活動できるようにしていただきたいと思いました。
- **Primary Division** 在籍時に比べて、小原國芳先生や全人教育について触れる機会が減ったと感じております。玉川学園の特徴は「全人教育」にあり、生徒たち自身が全人教育や小原國芳先生の素晴らしい思いや教育についてもう少し深く知ってもらえればと感じています。

#### <IB Programs Division>

- 目標にむけて順調に推移してほしいと思います。
- 自己評価は細部にわたり、多面的に項目があり、なかなか読み応えがありました。あらためて、玉川学園を知る、理解する良い学びになりました。
- 素晴らしく誠実性と熱意を感じた報告でした。どのディビジョンにおいても、現状に甘んじることなく、職員自己研鑽を課題にする姿勢に頼もしさと安心感を覚えます。
- **IB** クラスの学習量から、なかなか部活に入部できないことがあり、そのことから先輩後輩との接点が少ないと感じます。今後も縦割りの活動を増やしてほしいと思います。

#### <Division 共通>

- 全人教育の理念のもとに各ディビジョンにおいて様々工夫をされていると理解しました。新規事業にも取り組みながらよりよい教育プログラムを日々考えてくださっていることに感謝いたします。
- 各ディビジョンの教育活動のご報告を大変興味深く拝聴いたしました。“連携”が特にキーワードと感じ、一貫教育ならではの教育環境の中にいることを改めて実感いたしました。
- 各ディビジョン共、的確な目標設定と、それに対する対策は充分で、成果も出されていると感じました。また、時代に合った教育へ変化しているところも良いと思います。
- 古き良き教育、今後の AI の時代に向かっていく学びの技、研究からの夢を見つける教育はとても感銘を受けました。
- 各ディビジョンとも、よく考えられたカリキュラムおよび実施状況に満足しています。
- クラブ、部活動の現状や、今後 **ES** との兼ね合いの中での部活の位置付けを伺いたいです。
- 各ディビジョン同士、そして玉川大学とも連携した教育プログラムは非常に魅力的であります。強みを活かした教育を引き続き行って頂くようお願い申し上げます。
- 親学講座の回数を増やして欲しい等、子育てに関する様々な親への講演会を希望する声を多く聞きました。大豆生田先生の講演は大変好評だったので、また検討下されば多くの保護者が足を運ぶ事と存じます。

## ◆教育課程特例校

【評価ポイント：特例部分の学習活動が適切に行われていると思うか】（回答：19名）

適切である：73.7% 概ね適切である：26.3% やや不適切である：0% 不適切である：0%

### <JP・EPクラス>

- EPクラスの Person Primary Benchmark の結果をどのように評価しているか不明でした。
- JPクラスの娘はヒアリングを難なくこなせているようで、ひとえに先生方のご指導のおかげ、また学園内の英語に触れる機会が多い好環境のおかげだと感じております。しかし、スペリングや phonetics が弱く、それらについては授業でもう少し重きを置いていただきたいと思います。
- EPクラスにおいて、子供が英語と国語を混合せずに理解し学べていることに驚きました。英語の授業内容が工夫されていて、子供が楽しく取り組んでいると感じます。算数に関しましても、日本語と英語で宿題があり、何が理解できていないのか明確に把握できるので助かっております。
- JP・EP共に興味深かったです。とてもいい活動をされていると思いました。
- 第一言語の国語教育に不安がないのか？と聞いていましたが、学力テストの結果、平均的が同レベルとあったので素晴らしいと感じました。
- JPクラスは、英語を楽しく、自然に身に付けるカリキュラムであると感じています。
- 母国語と外国語で同じレベルの能力の習得を目指すだけではなく、あくまでも第一言語、母国語のベースである国語教育の充実を重要視されている点は大変素晴らしいものと考えております。インターナショナルスクールに通っていた日本人が、教習所のテスト内容を理解できないなど耳にします。日本語教育重視、その上での英語力をつける方向性は賛同し、同時に大変感謝しております。
- 算数や理科の学習内容について日本語で補う時間を、特定の学年に限定せずに設けるべきと考えます（日本語で問われて答えられないようでは、第一言語の国語教育が充実しているとは言い難いため）。また、児童への配慮として相談ボックスなるものが設置されていると聞いていますが、児童からの悩みに正面から向き合おうとする回答と言えるものではなく、その存在意義について再考の余地ありだと考えます。
- 保護者としても、他校同学年の学業レベルの標準偏差よりも上にある環境で、子供に切磋琢磨して欲しいと思う反面、様々な事柄に興味を持ち多くのアンテナを張ることの出来る中学生・高校生になるよう、導いて頂けますよう宜しくお願い致します。
- よく考えられたカリキュラムおよび実施状況に満足するとともに、今後にも期待をしています。

### <IB-MYP>

- 保護者への教育説明も十分していただけています。
- ほとんどの項目で充分目標を達成しており、次年度以降も頑張りたいと思います。
- 自己評価にもありましたが、EPクラス、IBクラスの児童・生徒たちの学習量、課題量、授業時間の負担が個人差はありまじょうが、ストレスや仲間との摩擦になっている懸念があります。その負担軽減に策を講じて下さっていることに感謝です。

### <IB-DP>

- 英語力の成果が数字で出ています。教育部長、教務主任、コーディネーター、専任の事務職員の配置など、カリキュラム運営を進める体制がとれていると思います。
- 時代変化に対応しながら教育内容を少しずつアップデートしていく難しさを感じました。
- 順調に推移していると思います。